

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

令和3年度病害虫防除情報第11号

冬春いちごのヒラズハナアザミウマについて、各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

冬春いちごにおいて、ヒラズハナアザミウマが増加しています。 今後の発生に注意し、適切な防除を行いましょう。

- 1 作物名 冬春いちご
- 2 病害虫名 ヒラズハナアザミウマ

3 発生状況（経過）

- (1) 2月中旬の巡回調査におけるヒラズハナアザミウマの発生面積率は58.3%（平年13.0%）、寄生花率は8.0%（平年1.7%）、10花当たり虫数は2.2頭（平年0.4頭）で、いずれも平年より多であった（図1、2、3）。
- (2) 今後、気温の上昇に伴いハウス内の発生量及び野外からの飛び込み量が増加することが予想される。

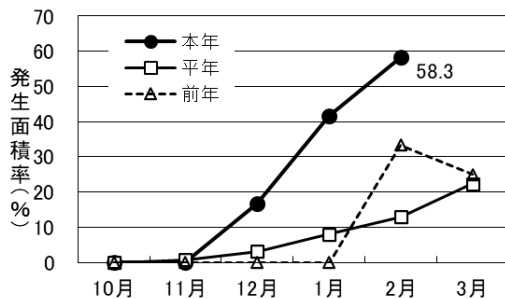


図1 巡回調査における発生面積率の推移

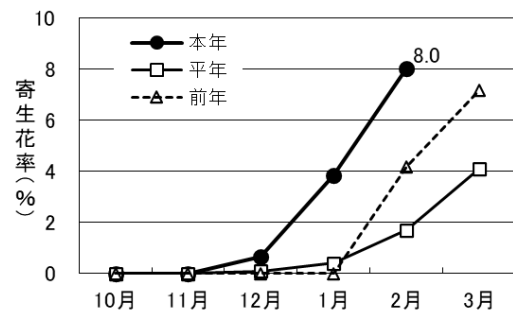


図2 巡回調査における寄生花率の推移

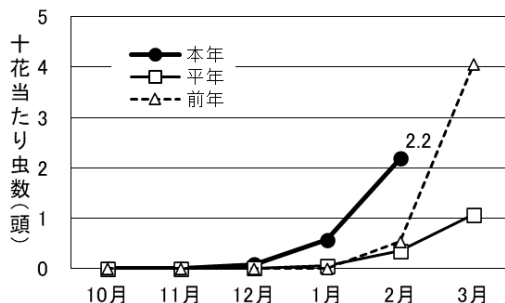


図3 巡回調査における10花当虫数の推移

4 防除上の注意

- (1) 本虫は花や果実に寄生し、食害されると果実品質が低下するため、早期発見に努め、成幼虫の寄生を発見したら早めに防除を行う。
- (2) 成虫の捕殺による密度抑制及び発生状況の把握を目的に、施設内に青色粘着板を

- 設置する。
- (3) 雑草は本虫の生育・増殖場所となるため、施設内及び施設周辺の除草を徹底する。
 - (4) 本虫が多発すると防除が困難になるため、発生初期からの防除を徹底するが、薬剤によっては感受性の低下が認められるため、薬剤の選定に注意する（表1）。
 - (5) 天敵及び授粉用ミツバチ（マルハナバチ等）に影響の少ない薬剤を選択して防除を行う。
 - (6) 有効な薬剤に対する抵抗性発現を回避する観点から、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を心掛ける。

表1 ヒラズハナアザミウマ雌成虫の各薬剤における補正死虫率（%）（2019～2021年）

薬剤名	IRAC コード	検定濃度 (倍)	採集年・場所				
			2019.5 Aほ場	2020.5 Bほ場	2020.5 Aほ場	2021.4 Bほ場	2021.5 Cほ場
アーデント水和剤	3A	1000	100	100	36	100	86
モスピラン顆粒水溶剤	4A	2000	60	32	42	58	39
スピノエース顆粒水和剤	5	5000	100	100	100	100	88
ディアナSC		2500	100	100	100	100	100
コテツフロアブル	13	2000	100	100	100	100	95
グレーシア乳剤	30	2000	94	91	92	91	96
ファインセーブフロアブル	34	1000	37	18	42	25	55
ベネビアOD	28	2000	57	3	34	43	21

検定はマンジャーセル法による薬液浸漬法を用いて行い、補正死虫率はAbbottの補正式*を用いて算出した。処理72時間後の結果を記載した。

*補正死虫率 = {(対照生存虫数 - 処理生存虫数) / 対照生存虫数} × 100

《連絡先》

宮崎県総合農業試験場病害虫防除・肥料検査課
 (病害虫防除・肥料検査センター) 椎葉
 TEL : 0985-73-6670 FAX : 0985-73-2127
 E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp